

『致富新書』の翻訳考

——原書との比較を中心に——

朱 鳳

要旨 本論は『致富新書』の原書、作者及びその漢訳の翻訳特徴について、考察するものである。特に原書に関して、先行研究が言及していた書物と違うもの、すなわち、*First Lessons in Political Economy* の存在を突き止めた。その原書に基づいて、『致富新書』の翻訳文と比較しながら、『致富新書』の翻訳特徴を考察した。

キーワード 『致富新書』 Samuel Robbins Brown 政治経済学書 漢字翻訳語

《致富新书》翻译考——以与原著比较为焦点

提要 本文着重考察《致富新书》的原著，作者以及汉语翻译的翻译特征。尤其是汉译书的原著问题，笔者提出了与先行研究不同的观点。笔者发现了 *First Lessons in Political Economy* 一书的存在。并指出这才是《致富新书》的原著。同时以这本原著为资料，与《致富新书》的翻译文章做了详细的对照和比较，考察了《致富新书》的翻译特征。

关键词 《致富新书》 Samuel Robbins Brown 政治经济学书 汉字翻译词

はじめに

『致富新書』はアメリカ人宣教師サミュエル・ロビンス・ブラウン (Samuel Robbins Brown, 漢名：鮑留雲, 1810-1880) が1847年に英書から漢訳した政治経済書である。その翻訳書は後に日本にも伝わって、その日本語版とし

て、1871年に訓点本『致富新書』（平田宗敬）、1875年に『致富新論訳解』（中島雄、讃井逸三）が出版された。19世紀において、政治経済学（Political Economy）という西洋の学問を中国、日本に紹介した書物として、重大な意味を持っていると考えられる。本論は、これまでの先行研究を踏まえ、『致富新書』の原書を突き止め、さらに、漢訳書と原書と比較しながら、その翻訳の特徴を考察していく。

ブラウンは1810年6月にアメリカのコネチカット州に生まれ、宗教熱心な母親の教育のもとで、幼少期から宣教師になることを目指していた。アメリカ・オランダ改革派教会（Reformed Protestant Dutch Church）に所属し、1838年にモリソン学校の教師として中国に赴任、その後8年間中国に滞在し、中国人児童への西洋知識啓蒙に熱心に活動した。1859年から1879年まで日本に滞在し（途中2年間帰国）、宣教活動と教育に尽力した。

1. 『致富新書』の原書について

1.1 先行研究について

『致富新書』の原書に関して、以下のような先行研究が存在している。

- 1) Federica Casalin, *Some Preliminary Remarks on the ZhiFu XinShu* 致富新書
（『或問』 No. 11, 2006, pp. 85-99）

Federica はエドキンズ（Joseph Edkins, 1823-1905）が編集した *Catalogue of Chinese works in the Bodleian Library*（Oxford, 1876）に本書を紹介する際に “It is a translation of a small work on Political Economy by Dr. Vickar, USA” を引用し、『致富新書』の原書はアメリカ人牧師で、教育家でもある Rev. Hohn McVickar（1787-1857）の著書 *Outlines of Political Economy* ではないかと推測した。しかし、同時に Federica は『致富新書』の内容が *Outlines of Political Economy* ととても似ているが、構成上に決定的な違いがあると述べた。翻訳書は18章で構成されているのに対して、原書は4部構成であるとも指摘した¹⁾。

1) Federica Casalin (2006) *Some Preliminary Remarks on the ZhiFu XinShu* 致富新書『或問』

2) 呉義雄「鮑留雲與『致富新書』」(『中山大學學報』(社会科学版) 2011年第3期、第51卷、pp. 88-96)

ここで、呉氏も Federica と同じ意見を述べている。彼は McVickar の『政治経済学大綱』(*Outlines of Political Economy*, 1825) と『政治経済学導論』(*An Introductory Lecture of Political Economy*, 1833) を考察した上で、漢訳書の原書は *Outlines of Political Economy* の可能性が大と推測した。しかし漢訳書は50ページに対して、原書は188ページもあり、両書の分量に大きな隔たりがあることを懸念していた。そこで、呉氏は『致富新書』の「例言」にある「合衆国鮑留雲易編」という表現に注目し、分量の違いは全訳ではなく、「易編」、つまり編纂による結果ではないかと考えた²⁾。

3) 上記の先行研究のほかに、孫健軍の「三つの『致富新書』と維新期の経済用語」(孫2015: 232-272) と王斌の「明治初期における経済学翻訳の一齣」(王2016: 33-46) においても原書は *Outlines of Political Economy* であると言及しているが、あくまでも1)と2)を参考にした論説である。新しいエビデンスはない。

ここで、『致富新書』の原書は本当に *Outlines of Political Economy* であるか再考する必要がある。筆者は McVickar の政治経済学書に関して、上記の呉氏が述べた2書以外、もう1冊の本の存在をつき止めた。*First Lessons in Political Economy* である。McVickar はこの書物の序にこのように述べていた。

The Author proposes to prepare a series of text books on these subject, in a manner suited to the varied ages and capacity of those for whose instruction they are intended, being

1. *First lessons in Political Economy* for Primary and Common Schools.
2. *Outlines of Political Economy*, for higher School and Academies.
3. *Lectures on Political Economy*, for the use of elder Students in Colleges³⁾.

No. 11、近代東西言語文化接触研究会、p. 90.

2) 呉義雄(2011)「鮑留雲與『致富新書』」『中山大學學報』(社会科学版) 第3期第51卷、p. 92.

3) John McVickar, D. D. (1846) *First Lessons in Political Economy* (seventh edition), New York:

つまり、教育家としての McVickar は学生の年齢と需要に応じて、内容的に違うレベルの政治経済学の教科書を作った。ブラウンが翻訳した『致富新書』は *First Lessons in Political Economy* に基づいたものであると仮説し、次の比較を通して考察していく。なお、本論で使用する *First Lessons in Political Economy* は1846年に出版された第7版であるが、『致富新書』の出版年は1847年であるということから考えると、おそらくブラウンが使用した原書はそれ以前の版本と推測できる。

1.2 原書と『致富新書』の内容比較

1.2.1 章立ての比較

原書と『致富新書』の章立てを表にして比較する。

表1に示したように、原書は19課で構成されているのに対して、翻訳書の『致富新書』は17章である。ほぼ原書通りに翻訳されていることを確認できる。原書の第7課 (Lawyer, Physician and Clergyman) と第17課 (Lotteries) が翻訳されていない。また、『致富新書』は第3課と第4課の順番も変えていることが分かる。

なぜこの2課を省いたかに関して、2課の内容から推測するしかない。『致富新書』は富をもたらす商品の生産、交易に関わる人、貨幣、市場原理及び政府、教育の役割を論ずるものである。第7課は「弁護士、医者と牧師」の三種類の職業の人について説明するものである。生産、交易に直接に関わる「農工商賈」等の労働者 (productive laborer) ではなく、非生産者 (unproductive laborer) と位置づけられている。また、第17課は宝くじについて説明するものである。従って、この2課は本書の本題からやや離れているため、省かれたのではないかと推測する。

1.2.2 本文との比較

原書は小学生の教科書という設定で作られたため、課の終わりごとに質問が設けられている。課の内容をより深く理解してもらうための練習問題で

Saxton and Miles, p. 8.

『致富新書』の翻訳考

表1 章立ての比較

<i>First lessons in Political Economy</i>		致富新書	
Lesson I	Money	1	論用銀格
Lesson II	Exchanges	2	論百工交易
Lesson III	Commerce	4	論貿易
Lesson IV	Merchant Section I, II	3	論商事 二則
Lesson V	The Manufacturer	5	論工藝
Lesson VI	The Farmer Part I, II	6	論農工商賈 二則
Lesson VII	Lawyer, Physician and Clergyman		
Lesson VIII	Land	7	論土地
Lesson IX	Rich and Poor	8	貧富分業
Lesson X	Productive and Unproductive Expenditure	9	論用銀益人
Lesson XI	Of Value	10	論物貴重
Lesson XII	Of Price	11	論市價
Lesson XIII	Cheap	12	論平賤
Lesson XIV	Government	13	公務
Lesson XV	On Education	14	學業
Lesson XVI	The Poor	15	貧約
Lesson XVII	Lotteries		
Lesson XVIII	How to make Money	16	論求財 並處事良規
Lesson XIX	How to Use Money	17	論用銀 並用銀例

ある。『致富新書』はその部分を省略している。また、前述したように、全体的に2つの課が翻訳されていない。その他、課の内容においても逐一翻訳されているわけではなく、省略されているケースもある。例えば、原書の Lesson VI The Farmer に下記のような一節がある。

Nor would this be all; most of the medicine used by us come from abroad, as the *Peruvian bark*, which comes from South America, for the cure of fever and ague, and *ipecacuanha*, for relieving the stomach, and *quicksilver* from the Spanish mines, one of which are made the most powerful medicines, for the cure of bilious fevers, and *aloes* for diseases of the liver, and *opium* to relieve pain; so that we owe to commerce also a great deal of relief which doctors are

able to give in sickness⁴⁾. (下線は引用者による。以下同)

この英文に対し、『致富新書』ではこのように翻訳している。

然通商之益人，又豈止此，如人之疾病，必須藥以醫之，然藥之為物，種類不一，非盡屬於一方，故越國過都以求之，亦勢所不能無也。若無商賈貿易，則不能致之。故人之疾病，亦賴於商焉。無商賈豈僅如是而已哉⁵⁾。

つまり、英文の下線部はほとんど省略され、「然藥之為物，種類不一，非盡屬於一方」で対応していることが分かる。『致富新書』の全編において、このような省略が随所にある。結果として、原書が135ページもあるのに対して、『致富新書』は55ページしかなく、随分とコンパクトになっている。また、原書は小学生でも理解出来るように簡易な英語を使っているのに対して、『致富新書』は立派な文言文を使用している。文体的にはむしろ文人向けに作られていると考えられる。つまり、『致富新書』の出版目的は原書と全く違って、学生用の教科書ではなく、高度な言語知識を持つ中国文人への経済学啓蒙書となっている。

2. 『致富新書』の作者について

『致富新書』の作者に関する情報として「例言」に「合衆國鮑留雲易編」と明記されている。また序を書いている匿名の中国人文人も「鮑留雲係合衆國之肄業士、飛鵝山之傳道師也」と説明している。『致富新書』の作者は Samuel Robbins Brown であることに間違いないと考えられるが、気になる資料が二つある。

1) エドキンズが編集した *Catalogue of Chinese Works in the Bodleian Library* (Oxford, 1876)

Che foo sin sho, a new work on Political Economy, by a Chinese student,

4) John McVickar, D. D., *ibid.*, p. 43.

5) 鮑留雲易編 (1847) 『致富新書』 粵東香港飛鵝山書院蔵版、p. 24.

educated in English at the Morrison Institution, HongKong. It is a translation of a small work on Political Economy by Dr. Vickar, USA, I vol., HongKong, 1847.⁶⁾

- 2) *Report of the Morrison Education Society* の一部である “*Mr. Brown’s Report, to the Trustees for the Morrison Education Society*” (Chinese Repository vol. 15, 1846)

One of the classes has translated a Manual of Political Economy from English into Chinese. After he had written and rewritten it several times, it was put into the hands of a Chinese teacher, for revision. By the kindness of gentleman at Canton, the expense of translating and printing the work has been defrayed, and it will probably be published, and ready for circulation in time for distribution among the candidates for literary honours, at the Examination in October. I think the book will be well received, as several Chinese teachers have examined it and pronounced it very good. It will tend to, as far as it is read, to inform the Chinese on some points of importance, which, though familiar to most minds in Christendom, are, nevertheless, new truths in China. I look upon the production with the more satisfaction, for it is the beginning of the realization of one great end of the Morrison Education Society, namely, the introduction of foreign science by native means into this country. Hereafter, if we persevere, we may behold the day of knowledge, whereof this little fact is but a twilight ray.⁷⁾

上記の二つの資料が示しているように、事実上『致富新書』はブラウンではなく、モリソン学校の学生が翻訳したものである。

エドキンスの情報は恐らくモリソン教育協会の報告書によるものと推測される。1846年の報告書に、この学生に関してこのような記述があ

6) Joseph Edkins (1876) *Catalogue of Chinese Works in the Bodleian Library*, Oxford, p. 37.

7) Report of the Morrison Education Society (1846) “Mr. Brown’s Report, to the Trustees for the Morrison Education Society”, Chinese Repository vol. 15, p. 608.

る。“regarding a Treaties on Western Political Economy which has translated into Chinese by one of the pupils, and is now being printed at Canton for gratuitous circulation. This pupil has not by a year and three months completed his course of study”.⁸⁾ この翻訳書は1年3ヶ月しか在学していない学生によるもので、無料配布のために広東で印刷されていることが分かる。

また、ブラウンの報告には、翻訳の過程と配布先などの詳細な情報も書かれている。翻訳は数回修正した後、数名の中国人の先生による文面の校正も行われた。また、彼の報告書の中に、『致富新書』の印刷と配布先に関する貴重な情報も書かれている。『致富新書』は匿名の人の資金支援によって印刷され、また、10月に広東で行われる科挙試験の受験者に配布する予定であった。翻訳書の文体が文言文であることはこの目的に一致していると思われる。中国人の先生によくできていると太鼓判を押されたため、ブラウンも「きっと（中国の文人に）認められるでしょう」と自信を示した。さらに、この書物の翻訳、配布の目的は西洋でよく知られている科学知識が、中国ではまだまったく新しいものであり、中国語で紹介するのはモリソン教育協会の目標の一つでもあると記述している。

したがって、ブラウンは『致富新書』の翻訳者というよりは、企画者、編集者である。彼の指導のもとで、学生が翻訳し、中国人の先生たちが校正などの一連の作業を行ったことを上記の資料から読み取ることができる。つまり、『致富新書』はモリソン学校の生徒と教員の教学の成果であると言える。

3. 『致富新書』の翻訳について

『致富新書』の翻訳はほとんど逐語的ではなく、かなり意識的に翻訳されているところが多い。その翻訳方法と翻訳語について次のように分類することができる。

8) Report of the Morrison Education Society, *ibid.*, p. 604.

1) 句単位で意識し、さらに原文を敷衍する

What a useful thing money is! If there were no such thing as money, we should be much at a loss to get anything we might want. (Lesson I: Money)

夫銀之為用於天下也大矣哉，上棟下宇者，銀也。重裨疊褥者，亦銀也。即食前方丈，僮僕滿前者，又銀以為之也。此天下之人，莫不資銀以應日用之事。使天下而並無銀也，則人將何以沽物。(「論用銀格」)

社会生活における通貨の重要性について、原文にはない中国語文を追加し、説明している。

2) 原文を敷衍する際、中国の古典を引用する

the occupation of the farmer must, therefore, have been the first that men engaged in. There were farmers in the world before there were manufacturers or merchants. Men must have had food to eat, and some to spare before they could find time either to build houses or weave cloth; and they must have had more than they wanted at home, before they could exchange with others in the way of trade. (Lesson VI: The Farmer)

可知農之為農，定為百物之先者也。故先有農而後有商賈百工。書曰，三年耕，而有一年之食，九年耕，而有三年之食。則食有餘粟然後能造宮室，織布帛，通商賈。(「論農工商賈」)

原文を中国語に訳しながら、ところどころに古典を引用して意味を敷衍する。“they must have had more than they wanted at home”を『書経』の一部を引用し、中国古典を熟知していた中国文人、科挙の受験生の目を引くためではないかと考えられる。

3) 原文の一部を省略する

Without the merchant we would be able to live, but then we would be deprived of many of the comforts we now enjoy; for there would be neither tea, nor coffee, nor sugar, nor wine, nor any spice or pepper, nor raisins, nor oranges, nor anything else which does not grow in our own country. (Lesson VI: The Farmer)

若無商以相通，吾人未必竟至於死，但日間所用之物，多不便矣。凡物之

生於外國，無由以得之。（「論農工商賈」）

羅列されている具体的な商品名の多くは西洋のものであり、あえて訳さず、「日間所用之物」で網羅し、伝統的な漢文の格調を保った形になっている。

4) 対句を駆使する

As the farmer puts his corn into the ground, and thus turns it, after some months, into more corn; and as the manufacturer puts his wool into his carding, and spinning, and weaving machines, and turns it into cloth; (Lesson IV: The Merchant)

夫農者春耕夏耘，幸得千倉萬箱之滿。織者日織夜紡，遂有盈筐盈筐之歡。（「論商事」）

文言文の文体の特徴を生かし、対句を駆使して、原文を美しく、正確に翻訳している。

5) 用例を中国化する

The West Indian and some of our southern states raise more sugar than they want for their use, while we raise more wheat than we want for ours. Now if this surplus could not be exchanged it would be useless. (Lesson III: Commerce)

夫中國則有餘茶，英國則有餘之布。若有餘而不能相通，斯所積者，亦終於無用。（「論貿易」）

原文の外国の用例を中国化し、当時外国の歴史、地理にまだ十分な知識を持っていなかった知識人にも読みやすくする配慮をしたものではないかと考えられる。

6) 新概念に関するいくつかの漢字翻訳語

政治経済学を紹介する書物のため、新しい概念を表す英単語も原書にたくさんあるが、それらの単語に関して、『致富新書』は独自の漢字翻訳語を与えていた。

① society

この単語は本文中に数回出現するが、次の用例のように、その翻訳語は前後の文脈によって違う。

a. The farmer is, therefore, to be honored as being the earliest of all professions,

and the most necessary to the support of society. (Lesson VI: The Farmer)

夫農者為百物之先，吾人日用粒食之需。（「論農工商賈」）

- b. Manufacturers, therefore, are as necessary to society as farmers. (Lesson VI: The Farmer)

故百工之不可舍，亦猶農夫之不可無也。（「論農工商賈」）

- c. Industry and economy would cease, and society go back to the savage state. (Lesson X: Productive and Unproductive Expenditure)

而勤儉不尚焉。則人類於野人之俗矣。（「論用銀益人」）

- d. To one living on a desert island, everything would have a value according to its actual use, ... but when one lives in society, the value of a thing is determined not by the use, but by the power of exchange. (Lesson XI: Of Value)

居於沙漠之間，物則有其用而重之，……居於城市則不然，物之所貴者，以其相易之重。

つまり、「society」という西洋の新概念を新しいことばを作らず、前後の文脈によって、「吾人」「人類」「城市」などの既存のことばで対応する。或いは訳さない。

② economy, economical, economist

- a. thus a pair of shoes that costs a dollar is said to be cheaper than a pair for which you must give a dollar and a half; and most people think they are economical when they buy the former. (Lesson XIII: Cheap)

如履之價殖半員，以一員之履比之，則半員者為賤也。而人謂買半員之履，則以為平。（「論平賤」）

- b. The true economist would buy them in preference. (Lesson XIII: Cheap)

若節儉而識貨者，見之必買之也。（「論平賤」）

- c. Industry and economy would cease, and society go back to the savage state. (Lesson X: Productive and Unproductive Expenditure)

而勤儉不尚焉。則人類於野人之俗矣。（「論用銀益人」）

ここの「economy」は今日の経済(学)ではなく、狭義的な節約、手頃などの意である。例文のように品詞の変化によって、それぞれの訳語を与えてい

る。また、原書名 *First Lessons in Political Economy* にある「Political Economy」は学問の名称であるため、「致富」という訳語を与えることによって、上記の例文にあることばとの違いを明確にしている。

③ individual

a. Land must become property and belongs to individuals. (Lesson VIII: Land)

我疆我土，務使各有所主。（「論土地」）

b. All the land belongs to the tribe at large, so that no individual Indian can have any land of his own. (Lesson VIII: Land)

為君立法，不准下民自賣其土。（「論土地」）

「society」と同様に、西洋の新概念であるが、新しいことばをつくらず、翻訳において、既存のことばを使用する。

④ capital

a. Money and land, therefore, is not the only capital with which a young man can begin the world. (Lesson XVIII: How to Make Money)

求財於天地之間，豈僅在金銀田地哉。（「論求財」）

b. Be industrious-time and skill are your capital. (Lesson XVIII: How to Make Money)

務勤勞，惜分陰長才智，此是求財之本根。（「論求財」）

a は原文の否定文を反問文に訳したことによって、「capital」を翻訳せずにする。b は「本根」を与える。

⑤ bankrupt

If they do not make fortunes like the merchant, neither do they like him fail and become bankrupt. (Lesson VI: The Farmer)

非若商賈之求財，有時血本無歸，而轉眼成空。（「論農工商賈」）

「fail」と「bankrupt」をまとめて、二つの四字熟語で訳す。

おわりに

本論は『致富新書』とその原書 *First Lessons in Political Economy* を資料にし、

その翻訳背景及び翻訳の特徴を考察した。本論の考察によって以下のことを明らかにした。

1) 『致富新書』はブラウンの編集と尽力で出版されたが、その実際の翻訳者はモリソン学校の生徒である。また、翻訳文は数名の中国人の文人の校正によって、立派な文言文の文体にまとめられた。

2) 原文の出版目的と違って、学校の教科書として編集されたものではなく、科挙を受ける文人に無料配布するために出版されたものである。そのため、意図的に格調高い文言文という文体を採用したと考えられる。

3) 中国の古典を引用したり、対句を使って敷衍したりするような、特徴のある翻訳の工夫は随所に見られる。文人たちの嗜好に沿うように「雅順」をもっとも重視した翻訳方法だと思われる。

4) ほとんど新造語を使用せず、極力既存の中国語（在来語）を使って翻訳している。そのため、原書の内容を中国化したり、省略したり、敷衍したりする箇所は随所に見られる。さらに政治経済学に関わる新概念の翻訳に関しても、在来語を駆使して翻訳するか、逐語で翻訳せず、全体で意識するなどの工夫もみられる。

1847年と言えば、広東、香港あたりでは参照できる英華字典はモリソン (Robert Morrison, 1782-1834) の *A Dictionary of the Chinese Language* (3部6巻、1815-1823) の他、メドハースト (Walter Henny Medhurst, 1796-1857) の *English and Chinese Dictionary*, 2 Vol. (1844)、ウィリアムズ (Samuel Wells Williams) の *An English and Chinese Vocabulary in Court Dialect* (『英華韻府歷階』1844) しかない。そのような状況の中で、ブラウンは『致富新書』を編集、出版し、新科学知識の重要性を中国人に伝えたいと考えていた。これらの知識は西洋の国々ではすでによく知られているが、中国ではまだまだ新しい真実 (new truths) であるゆえに、中国語で伝えることは大事であり、またモリソン教育協会の目標の一つでもあると報告書に述べられている。

ブラウンの『致富新書』が中国文人の間に配布された後、どのような影響があったか、さらなる研究調査が必要であるが、二十数年後にこの翻訳書が

日本に伝わって、日本人の政治経済学の啓蒙書として重宝されたことはすでによく知られた事実である。ブラウンの願いはほぼ叶えられたと言えるだろう。

参考文献

- 孫建軍 (2015) 『近代日本語の起源——幕末明治初期につくられた新漢語』 早稲田大学出版部。
- 王斌 (2016) 「明治初期における経済学翻訳の一齣——漢訳書『致富新書』をめぐって」 『翻訳研究への招待』 No. 15.
- Robert Morrison (1815–1823) *A Dictionary of the Chinese Language* (3部6巻), East Indian Company's Press.
- Samuel Wells Williams (1844) *An English and Chinese Vocabulary in Court Dialect* (『英華韻府歴階』), Office of the Chinese Repository.
- Walter Henny Medhurst (1844) *English and Chinese Dictionary*, 2 Vol., Batavia, Dutch East Indies.

朱鳳 Zhu Feng 京都ノートルダム女子大学教授 専門：日中近代語彙交流史、東西言語文化接触史